

I. 講師：長崎外国語大学 富田高嗣 副学長

タイトル：「国際交流と外国語」

内容

1) 国際交流に外国語は必要か？

- ・もちろん、必要である。しかし、外国語ができないと国際交流が何もできないわけではない。
- ・外国語は苦手であるが、友人を作るのがとても上手な生徒がいた。その生徒は、様々な外国語を話す留学生と「ひたすら笑顔」で話しており、交流が成り立っていた。
- ・フランス語1級を保持した、高い語学力を持った生徒がいたが、その生徒は他のフランス人との交流が上手くできなかった。その理由は2つ。①会話が続かない。話題が乏しい。②外国人と話すことを自分の語学力向上の練習としかとらえていなかったため、良い人間関係を築けなかった。

○国際交流で見落とされがちなポイント ⇒ 「日本に関する知識」の整理が大切。

○国際交流で大切なこと = **相互理解** & **「交流したい」という気持ち**

○良い交流をするためには、事前準備が必要。

- ・様々な知識を吸収し、色々な体験をしておく。
- ・今受けている様々な授業をしっかり身に付けておく。



2) 外国語をどのように学ぶか？

- ・4技能 (reading, writing, speaking, listening) の中では、一般的に「speakingが好き」という人が多い。
- ・外国語は好きではないが興味はある、という場合は、すでに話し手がいない言語を学ぶのも手である (ラテン語/古典ギリシャ語/サンスクリット語など)。
- ・外国語を学ぶ際、「基礎」が大切。
今の英語学習をしっかり行いながら、できるだけ多くの外国語に触れると良い。
英語ができると (核になる言語があると)、その他の外国語も身に付けやすい。

3) 高校生が今のうちにしておくべきことは何か？

- ・今、与えられている勉強にしっかり取り組むこと。
- ・興味があることを突き詰め、身に付けていくこと。探究心を持つこと。



II. 講師：長崎外国語大学 坂本 彩希絵 教授 (専門はドイツ語)

タイトル：「探究活動の方法」

内容

1) 探究するとは？ 課題との向き合い方

- ・世の中の変化が速い。人やモノに関する課題が地球規模で登場。 eg) Covid-19
- ・SDGsに取り組む時代。世界中で合意。

→しかし、テーマが大きく、日常とかけ離れている。根本的に解決するには政治の力が必要。
一人ひとりがどう向き合うか？

- ・問題を解決する、とは？ → 目標と現状のギャップを埋めること
eg) sustainable society であってほしい。でも……。だから……。

2) Gaidaiプロジェクト

<テーマ例> ・地域社会・学内の多言語化
・地域社会の活性化
・学内の国際交流の活性化
・観光資源の発掘

<具体例>

- ① 「人に優しい町づくり」支援隊 (大瀬戸町雪浦地区の町おこし)
 - ・西彼杵に旅行客を呼び込むためには？
→特産の滑石(かっせき)を用いて、中世「石鍋」を作ってみる。
→ Outdoor Activity に!
- ② 地域社会多言語プロジェクト
 - ・「異文化摩擦を減らそう」
→学内の注意掲示や貼紙: 翻訳 / チェック(伝わるか) / 協力者探し
 - ・どこに基準を合わせればよいのか？
- ③ Gaidai ライフブックプロジェクト
 - ・充実した外大ライフ
 - ・企画立案: ニーズの調査
制作 : 取材、撮影、記事
- ④ フェアトレードでSDGsを推進しよう
フェアトレード、SDGsの認知度アップに向けて → ・学童や小学校でクイズ、試合 etc.
・インスタグラム

2) 身近なテーマが多い理由

○限られた期間内に実現することを重視

- ・4か月で1つの成果物
- ・2学期間の活動

○時間は限られている

- ・一人ひとりに割ける時間の確認
- ・スモールステップを積み重ねる
- ・人に託すことも大切

★現代において今後、「たっぷり時間がある」ことはない。

現代人である以上は避けられない。

だから、大きな事から始めるのではなく、スモールステップを積み重ねることが大切。

★Betterを探る

- ・× 一部の人のベストを追求
- 全員にとってベターを探す

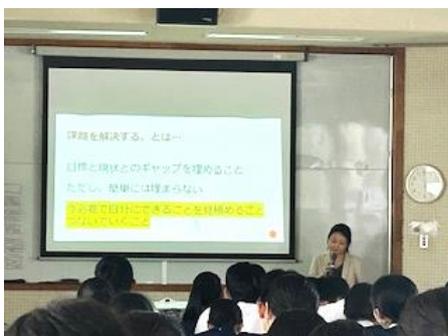


3) まとめ

○「問題を解決する」とは？ → スモールステップ。目標と現状とのギャップはすぐには埋まらない。

○今行っている活動を、今後地域社会に活かしてほしい。

★「今必要で、自分にもできることを見極めること。つないでいくこと。」



VIEL ERFOLG
(ドイツ語:「頑張ってください!」)